パーキンソン病短期集中リハビリテーション入院のごあんない

生活を整えるための 4 週間短期入院プログラム！

パーキンソン病の症状は薬だけでは改善しきれない「生活のクセ」や「身体の使い方」によって大きく左右されます。歩きにくさ、転倒の増加、すくみ足、疲れやすさなどは、運動習慣・姿勢・生活環境の見直しによって改善できる部分が残されています。

服薬調整以外の改善を主な目的に身体機能を改善し
「動ける体」と「整った生活」を取り戻すための入院です。



プログラムの概要

この短期入院プログラムは、薬剤調整を行わず、運動療法と生活習慣の改善に特化した 4 週間の集中プログラムです。 平日は病院で集中的に訓練を行い、土日は自宅に戻って「実際の生活でどのように変化が出るか」を確認します。
病院と自宅を往復しながら、入院で身につけた力が家庭でも発揮できるかを丁寧に見直すことができる、実践的なプログラムです。

※入院と在宅を組み合わせることで、「病院ではできるのに家ではできない」をなくしていきます。

※入院中、主治医が判断した場合、薬剤調整を行う場合があります。

※退院前にはカンファレンスを行い、関係機関とスムーズな連携を進めます。



環境によるリスクの工夫点

在宅での生活環境は、動きやすさや安全性に大きく影響します。
環境の確認から、転倒の予防や「すくみ足」が起きやすくなる要因を評価します。リスク軽減につながるような提案もします。

ご本人とご家族が一緒に、無理のない範囲で整えていきましょう。



BEFORE	AFTER
狭くなる	→配置の見直し 手すりの提案
材質が変わる	→カーペットを撤去
足の置き場	→玄関の整理
	など

プログラムの流れ（4 週間）

※原則 4 週間（期間は生活状況により 2 週間も相談可能です）

外来評価
- 医師の診察
- 検査

外来入院前評価
- リハビリスタッフによる入院前評価
- ソーシャルワーカーによる説明
- 多職種による情報共有

平日
- 病室の環境調整
- リハビリ開始
- 自主トレーニング指導
- 栄養指導
- 服薬指導

土日（外泊）
- 自宅で実践
- 自宅での問題点の確認

平日
- 自宅での問題点を含めリハビリ実施
- 自主トレーニング指導

（最終週）
- 最終評価

退院前カンファレンス
- 患者さま、ご家族、在宅支援者への情報提供

退院

※効果判定のため退院後 2 か月前後でリハビリスタッフによる評価を行う場合があります。



【平日】病院で集中リハビリ

- 多職種による心身機能、日常生活評価
- 歩行・姿勢・バランス訓練
- 転倒予防プログラム
- 入院中の環境調整や自宅環境の見直し
- 家庭で続けられる運動メニューの作成および指導
- 栄養士による食生活評価
- 薬剤師による服薬評価

【土日（自宅での外泊）】自宅で実践・確認

- 入院で学んだ動作を家庭で実践
- 家の中の動きやすさ・危険箇所の確認
- 家族のサポート方法の見直し
- 翌週の訓練に向けた課題整理

LSVT BIG®（リー・シルバーマン療法）



アメリカで開発された運動トレーニングで、パーキンソン病患者さまの歩行や日常生活動作の改善効果が証明されています。
LSVT®BIG は認定講習の修了が必要で、当院は講習修了したセラピストが在籍しております。

入院期間・対象者・費用

・入院期間：4 週間

・対 象 者：パーキンソン病（Hoehn-Yahr 重症度分類Ⅰ～Ⅳ）の方で、重度の認知機能低下がなく、精神的に安定されている方を対象としています。

・費　　用：ご加入の医療保険による診療です。難病医療費補助制度、後期高齢者医療制度の利用が可能です。

お問い合わせ

・地域医療連携室までお問い合わせください。